

分野	専門分野Ⅰ －基礎看護学－	対象学年	1
		時期	前期～後期
授業科目	日常生活援助技術Ⅲ (食事・排泄) Care skills for daily Life Ⅲ	単位	1
		時間	30
		方法	講義・演習
担当教員	認定看護師・専任教員 附属病院で6年間の実務経験有		
科目責任者	専任教員		
授業概要	<p>人間にとって栄養を補給し、消化・吸収され、その後排泄される機能は生命維持にとって重要なことである。本科目では、人間にとって生きるための食事という意義を深く考え、対象の食行動や食生活に関心を持ち援助につなげられるようにしていく。</p> <p>また、健康であれば、排泄は人に委ねることなく、自分自身で行う行為である。患者の自立にむけ、羞恥心に配慮して援助につなげられるようにしていく。</p>		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事援助技術の意義と援助方法を理解する。 2. 食事援助技術を身につける。 3. 排泄援助技術の意義と援助方法を理解する。 4. 排泄援助技術を身につける。 5. 対象の尊厳に配慮する態度を養う。 6. わからないことを自ら考え、調べる姿勢を養う。 		
評価方法	<p>終講試験 100点</p> <p>・食事 36点 ・排泄 64点</p> <p>※基礎看護統合技術で技術試験を行います。</p>		
使用テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学【2】 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学【3】 医学書院</p>		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
メッセージ	<p>食事・排泄共に生命維持のために必要な日常生活行動です。</p> <p>【食事】</p> <p>食べることは人間にとって生命の維持に必要不可欠なものです。また、楽しみでもあり、満足感を得ることができる大切な日常生活行動です。食事の意義を理解しつつ、対象にあった食事援助ができるように一緒に学んでいきましょう。</p> <p>【排泄】</p> <p>排泄の援助は羞恥心を伴い、心身ともに計り知れない苦痛を感じるものです。排泄援助に必要な知識と技術だけでなく、対象の苦痛に配慮する姿勢を身につけていきましょう。そして、栄養の代謝・吸収・排泄のメカニズムを踏まえて、対象の排泄における自立と個別性を考えながら学習していきましょう。</p>		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	I 食事の援助 技術 1. 食生活の支援	食事の意義を理解し、食生活の支援について理解する	食事・栄養のもつ意義、 食事援助をアセスメントするための基礎知識、 嚥下・消化吸収のしくみ	講義	摂取嚥下 認定看護師
2	2. 食事介助方法	食事介助方法、食事療法の基本について理解する	食事療法とは、食事介助について、 援助の基礎知識、誤嚥しない姿勢 食事環境整備、食事介助時の観察項目	講義	//
3	3. 非経口的栄養 摂取方法	摂食・嚥下に関する援助の実際と 非経口的栄養摂取の援助の実際 について理解する	摂食・嚥下に関する援助方法とその根拠、 食事介助時の声かけ、食事時の環境調整、 プライバシーへの配慮、 食事介助を受ける対象の思いについて、 非経口的栄養摂取の援助方法の種類と特徴 (経鼻経管栄養法、胃瘻法、中心静脈栄養法)	講義	

4	4.配膳、食事介助の実際	配膳・食事の方法と留意点、態度について理解し食事の援助方法が実施できる	患者誤認防止の方法、食事に集中できる環境調整、誤嚥しない体位の工夫、安全に食事を摂取する方法 (食事のペース、一口量、口へ運ぶタイミング)	演習	
5	II 対象に応じた食事援助の実際 1.統合演習 (配膳、食事介助)	対象の状態や状況に応じた食事援助の実際を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 対象の症状や状況を考え、自立に向けた援助 対象の生活の中で食事と排泄の関連を考えた援助 適切な食事環境を整え安全、安楽な援助 健康障害による対象の苦悩を理解し、配慮した声かけや行動 	演習	
6	III 排泄援助技術 1.排泄の機序	排泄と援助の意義について理解する	排泄の定義、排尿の機序と正常、排便の機序と正常、排泄に影響を与える因子、排泄の援助の意義(看護の役割)	講義	
7	2.自然排泄の介助	便器・尿器・ポータブルトイレの介助、オムツ交換の援助方法を理解する	自然排泄の援助(デモンストレーション) 便器・尿器での排泄の援助、ポータブルトイレの介助、オムツ交換の実践	講義	
8	3.自然排泄の介助の実際	便器・尿器・ポータブルトイレの介助、オムツ交換ができる	羞恥心に配慮した排泄援助、便器・尿器での排泄の援助、ポータブルトイレの介助、オムツ交換の実践	演習	
9	IV 対象に応じた排泄援助の実際 1.統合演習 (尿器、便器、ポータブルトイレの介助、おむつ交換)	対象の状態や状況に応じた排泄援助の実際を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 対象の症状や状況を考え、自立に向けた援助 対象の生活の中で食事と排泄の関連を考えた援助 適切な排泄環境を整え、羞恥心に配慮した援助 健康障害による対象の苦悩を理解し、配慮した声かけや行動 	演習	
10	V さまざまな排泄援助 1.浣腸・摘便	グリセリン浣腸・摘便の援助方法について理解する	排便障害がある対象への援助 (デモンストレーション) グリセリン浣腸、高圧浣腸、摘便	講義	
11	2.浣腸・摘便の実際	浣腸・摘便ができる	浣腸・摘便の実際 グリセリン浣腸、摘便	演習	
12	3.導尿、膀胱内留置カテーテル法、洗浄	一時的導尿・持続的導尿・膀胱洗浄の援助方法について理解する	排尿障害がある対象への援助 (デモンストレーション) 一時的導尿、持続的導尿、膀胱洗浄	講義	
13	4.導尿の実際	一時的導尿の援助ができる	一時的導尿の援助 無菌的操作での取り扱い、導尿カテーテルの挿入と抜去	演習	
14	5.膀胱内留置カテーテル法の実際	持続的導尿の援助ができる	持続的導尿の援助 無菌操作での取り扱い、導尿カテーテルの挿入と固定および抜去、蓄尿バックの管理、採尿方法	演習	
15			終講試験		